



体験型漢字講座



Hiroshima City
Asa Zoological Park

広島漢字探検隊

動物園で漢字と出会う

漢字は、古代人の知恵の結晶、時空を超えた贈り物です。
身近な物と漢字の結びつきを探る、「広島漢字探検隊」を今年も開催いたします。動物を表す漢字の成り立ちを、動物を観察しながら学びます。
どなたでもご参加いただけます。

日時 **2011年5月22日(日)**
13時30分～15時30分

場所 **広島市安佐動物公園**
・動物科学館 2階ホール
・園内

対象 小学生以上(親子や大人だけの参加も可)

申し込み 費用は、**無料**(入園料は別途お支払いください)
定員は、**50名。先着順。**
電話で**安佐動物公園**まで。
5月1日から受付。
TEL 082-838-1111

主催 **広島市安佐動物公園**

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所



**参加者には漢字カードを
差し上げます!**



写真はイメージです

漢字探検隊って何? しらかわしずか だれ 白川静って誰?

このちらしの裏を見てください

漢字探検隊って何？

象は、中国にいないのに、どうして「象」という漢字があるの？

ビール瓶にかいてある「麒麟」の絵と、動物園にいる「キリン」が違うのは、どうして？

おりの前まえにある木こに彫ほってあった「鹿」「麂鹿」「小熊猫」って、何て読むの？

こんなことを考かんがえたことはありませんか。漢字ができたのは、大昔おおむかしの中国です。でも、わざわざ中国へ行いかなくても、今いまの広島ひろしまでその答こたえを見つみけることができます。「漢字探検隊」は、教室きょうしつから飛とび出だして、みんなで漢字なぞの謎さくを探さぐります。

安佐動物公園を見学して、「犬・羊・鳥」など、動物からできた漢字の成り立ちを学習します。
動物園と立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の職員による解説を行います。

白川静しらかわしずかって誰だれ？

漢字なの成り立ちを調しらべると、大昔おおむかしの人の暮くらし方や考わえ方が分わかります。これまでは、2000年前の字書のちに書かれていた成り立ちを、後のちの人のちもずっとそうだと考えていました。

しかし、「そうではない」と自分じぶんの考かんがえを表あらわしたのが白川静先生です。およそ50年前のことです。白川先生は、大昔おおむかしの人が亀かめの甲羅こうらや獣けものの骨ほねに刻きざんだ字けんきゆうを研究して、漢字の成り立ちについての新しい考かんがえを発はっぴよう表あらわしました。

白川静博士（1910-2006）は、漢字研究の第一人者。中国古代人の生活や信仰にまで踏み込んで古代文字を分析。漢字の成り立ちについて、2000年来の解釈を覆す理論を打ち立てました。立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所は、白川博士の研究成果を元に、東洋文字文化について広く社会一般を対象とした教育と普及を行い、また学術研究の分野において東洋文字文化研究の振興と高度化を図ることを目的に活動を行っています。

